

# 復職支援研修受講者が復職に結びつく要因分析と今後の取り組み

令和5年度復職支援研修担当 佐々木真由美

## 【目的】

復職支援研修受講者で、未就業者が復職に結びつく要因を分析し、今後の課題を明確にするとともに、次年度の研修企画につなげる。

## 【方法】

調査期間：令和5年6月から8月

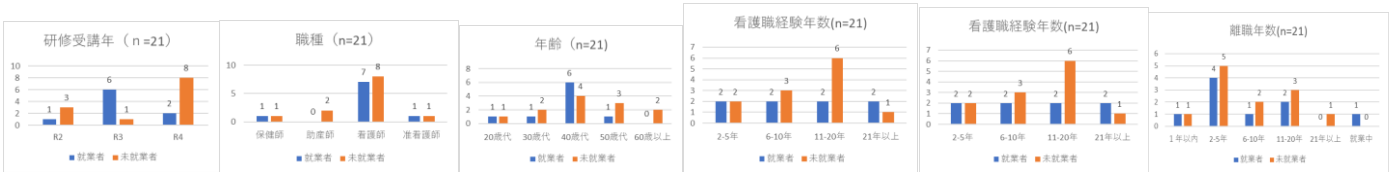
調査対象：令和2年から4年度の長崎県看護キャリア支援センターの復職支援研修に参加した人で、各年度末の時点で未就業の受講者50名

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査内容：1. 基礎データ：研修受講年度、職種、年齢、勤務経験年数、離職年数、研修受講時の就業の有無、現在の就業の有無、2. 未就業者への就業に関する項目：求職活動の有無、未就業の理由、就業時に重視する条件、就業を決定する条件を単純集計し、調査対象で現在、就業者と未就業者で比較する。

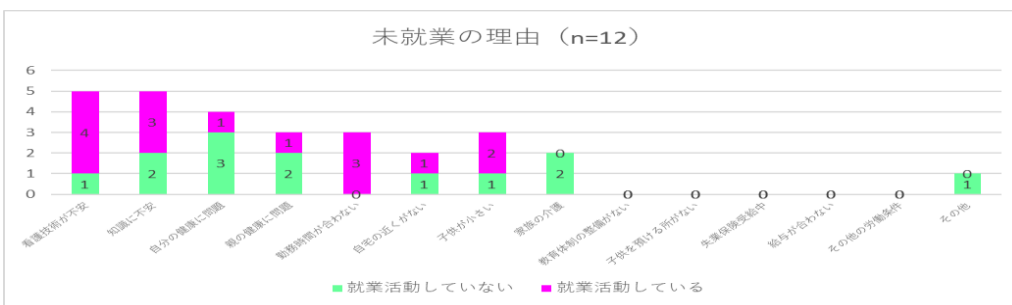
## 【結果】

アンケート配布50名中、宛先不明で返却3名、回収21名（回収率44.7%）21名中就業者9名（43%）、未就業者12名（57%）だった。基礎データの結果は以下のグラフの人数だった。

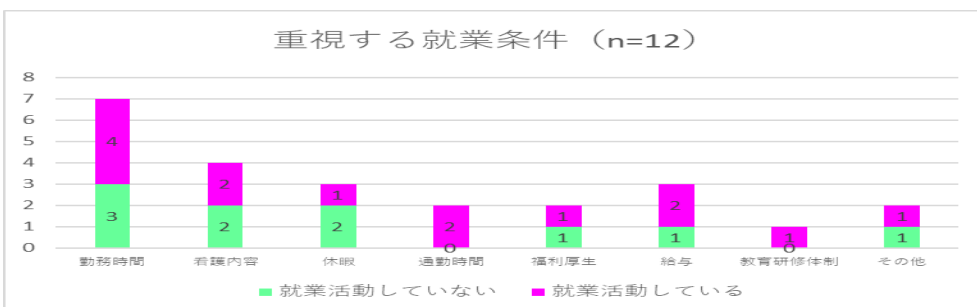


未就業者12名に対して、現在の就職活動の有無は「している」7名、「していない」5名だった。

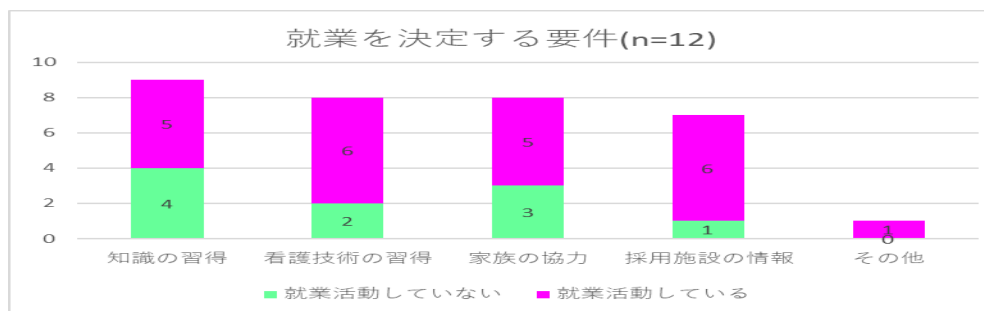
未就業の理由は「看護技術が不安」5名、「知識が不安」5名、「自分の健康に不安」4名だった。就業活動をしていない人の理由は「看護技術が不安」4名、「知識が不安」3名、「就業条件が合わない」3名だった。



重視する就業条件としては「勤務時間」が7名、「看護内容」が4名、「休暇」が3名、給与が3名だった。未就業者では「勤務時間」4名と多かった。



就業を決定する要件として「知識の習得」9名、看護技術の習得8名、家族の協力8名、採用施設の情報7名だった。未就業者では「看護技術の習得」6名、採用施設の情報6名、知識の習得5名、家族の協力5名が多かった。



### 【考察】

年度末で未就業としている受講者でも、その後、就業している人が21名中9名(43%)いた。就業者数は報告後も引き続き確認していく必要がある。未就業者の就業していない理由や就業を決定する要件にも、看護技術や知識の習得が大きくウエイトを占めている。未就業者の意見として、その理由が知識や看護技術に不安を感じている項目が高い値を示した。就業して即実践をしなければいけない、看護技術や医学知識について自信がないことが就業への意識を躊躇させてしまう原因になっている。

また、就業を決定させる要件として「知識の習得」「技術の習得」が上位にきた。「看護技術が不安」「知識が不安」などネガティブ思考の人は就業に結びつきにくい傾向にある。知識・技術に自信を持たせることが早期就業へ有利に結びつくと考え。

重要視する就業条件は「勤務時間」「看護内容」「休暇」だった。就業希望者へ募集先の就業内容個別に合わせた相談対応が重要視される。また、就業者の就業条件や実態を求職者へ知らせて柔軟な採用ができる体制を検討していただくことが就業数を増やすことに優位である。

このような情報を施設と情報共有する機会を作り、就業しやすい就業条件を提示してもらうようにアドバイスすることも重要である。「施設の情報」も特に就職活動を実施している人に要望が高い。各施設との情報交換を密に取り、お互いが理解することが就職を斡旋しやすいと考える。

### 【令和6年度の重点取り組み】

1. 看護技術に対する知識・技術を演習する機会を増やす・・・看護技術に特化した研修を企画する。
2. 長崎県看護キャリア支援センターの広報活動に力を入れる・・・研修案内を受講者へ、その都度案内する。ホームページへの掲載、離島については、「しまWEB」に特化した配信を企画し、解りやすく研修一覧表に表示する。また、「しまWEB だより」を発刊する。
3. 就業相談の丁寧な対応・・・本人の経歴を踏まえ、研修受講時の技術の習熟状態を加味して就業先をアドバイスする。